



HISTORY

## 2019年3月 指月電機は80周年を迎えます



「自分なりのコンデンサ工場をつくりたい」という野望を胸に秘め創業。社名は、毛利家の微臣だった祖先を偲び、「指月城」の名前をお借りした。

1939年3月10日、西宮市染殿町に個人経営の小さなコンデンサ工場が生まれました。同年10月、創業者の山本重雄は、さまざまな試行錯誤を経て「油含浸」という新しい技術を完成させ、日本初のオイルコンデンサを開発しました。それからシツキは、次々と市場に新商品を送り出し、「技術のシツキ」として産業の発展とともに成長を重ねてきました。テレビなどの家電製品や新幹線、太陽光発電、電気自動車。新しい技術が誕生するたびに、私たちシツキも新たな商品開発に挑み、フィルムコンデンサにおいて業界随一と自負し得るまでの技術を蓄積してまいりました。そして2019年3月10日、指月電機製作所は80周年を迎えます。皆様への感謝を胸に、これからもしっかりとお役に立てるよう、歩みを重ねてまいります。



VISION

## 長期経営ビジョン・新中期経営計画を策定

### 長期経営ビジョン

「10年後の指月グループのあるべき姿」

### 新中期経営計画

2019  
2021

2022  
2024

2025  
2028  
年度

次の10年を考えた長期経営ビジョンをふまえ、新中期経営計画は3ステージに分けて進めていく。

80周年を前に、社員一人ひとりが次の10年を考え、指月グループの長期経営ビジョンとして「10年後の指月グループのあるべき姿」を策定いたしました。社員へのアンケートや論文の募集、タウンミーティングや個別ヒアリングを行い、さらに、各部門の若手社員を中心にワーキングチームを結成し、2018年2月からビジョン策定のための活動を開始。6月には役員提言も行いました。社員が主導となり、ボトムアップで経営ビジョンをつくり上げていきました。そして現在、この長期経営ビジョンをふまえ、次期中期経営計画の検討を進めています。来春にニュースリリースとして皆様に発表させていただく予定です。